

歴代医療生命薬学研究所長

医療生命 薬学研究所 のあゆみ

第二代 研究所長

村木 克彦



愛知学院大学薬学部 医療薬学科が創設10周年を向かえましたこと、心よりお慶び申し上げます。

さて、医療生命薬学研究所は、愛知学院大学の12番目の研究所として薬学部に設置が認められ、平成24年4月に誕生しました。初代研究所所長は佐藤雅彦教授(衛生薬学講座)が務められ、平成25年4月より村木(薬効解析学講座)が後任として、所長職を引き継いでおります。組織概要としましては、研究所設置の趣旨のひとつでもあります「薬学部の講座制枠に囚われない講座横断型の研究の支援」を目指し、創薬科学ユニットと生命薬学ユニットを設け、各所員が独立して所属を決めることが可能となっております。現在、若手の教員を中心に、17名および16名が、それぞれ創薬科学ユニットおよび生命薬学ユニットに所属し、積極的に横断型の共同研究を実施しております。また所長を中心とした運営委員会を設け、所員の研究を予算面および体制面からバックアップしております。

研究所の活動としましては、競争的な研究助成金の交付、研究設備の整備、研究所主催サイエンスフォーラムの開催などを実施しております。とくに研究助成金の交付につきましては、今後の学外大型予算の獲得も視野に入れ、講座横断型で若手の所員が積極的に関わる研究テーマを選定しております。この3年間では、研究所の予算枠を超える数多くの申請を受理し、毎年おおよそ2.3倍の競争倍率となっております。また選定研究テーマから次世代創薬シーズも生まれつつあり、本研究助成が極めて有意義に活用されている証左となっております。もちろんこのような研究成果は研究設備の充実なくしては実現不可能であり、今後も薬学部や薬学研究科と連携し、今以上の最先端設備・機器の充実を目指したいと考えております。

薬学部が6年制に移行し、とくに私立大学では研究活動の大きな担い手である大学院生数が激減しました。しかし高度先端医療や地域医療を支える薬剤師の教育には、教員が高い専門性をもち、研究活動を継続していることが必須といわれています。医療生命薬学研究所は、とくに次世代を担う若手教員の支援を通じて、その専門性の研鑽や研究活動の発展に寄与できるよう、積極的に活動していく所存です。今後とも皆様のご支援ならびにご協力よろしくお願い致します。